



園だより

文京区立第一幼稚園
令和6年度12月号

URL <http://www.bunkyo-tky.ed.jp/dai1-kg/>

「ありがとう」がいっぱい

園長 田村 秀子

木々の葉が色鮮やかとなりました。庭門の外に落ちているケヤキの葉を踏んで、カサカサという音を楽しみながら登園してくる子もいます。アカメガシワの黄色い葉や、カキの赤やオレンジの葉で花束やアクセサリを作る子もいました。秋も深まり、冬支度が近付いています。

さて、先日のゆうえんちごっこでは、年長児同士はもちろん、年中児、年少児も招待され、園全体で楽しみました。段ボールや台車、積み木などを使って作った「よるのジェットコースター」「みなみのカップ（コーヒーカップ）」「おかしなゴールをめざせ（2両連結の車）」「お化け迷路」「おさかなカフェ」の5つの場所では、自分より小さいお客さんを一生懸命もてなす、年長児の姿がありました。友達とイメージを出し合っただけで作った場にお客さんを呼ぶのを楽しみにしたようで、招待状を作って届ける時は誇らしそうでした。年少児・年中児も年長の遊園地に行くことを楽しみにしていて、当日は本当の遊園地に行ったかのように、ドキドキしながら乗り物に乗ったり、お店の人に手をつないでもらってお化け迷路に入ったり、おさかなカフェで美味しそうにスイーツを食べたり（食べるつもりになって遊んだり）していました。

その後、年少児と年中児が学級ごとに年長児にお礼の手紙を届けに来ました。年長児は大喜びで、年少中担任の先生が紹介してくれる手紙を嬉しそうに眺めていました。かわいい絵や先生が代筆してくれた文字が書いてあり、一つ一つ心がこもっています。年長組が「ありがとう！」と大きな声で言うと、年少中児も「こういう時はどう言うのかな？」と少し考えて「どういたしまして」と言っていました。そんな子供たち同士のやり取りを見ていて、何て素敵な「ありがとう」と「どういたしまして」だろう！と思いました。「ありがとう」や「どういたしまして」の言葉が心に響き、言葉の意味を実感する体験になりました。手紙には「ケーキがおいしかった」「かき氷、おいしかった」「ガイコツがいてびっくりした」などと書かれており、年少中児がイメージの世界に入って一緒に楽しんでいたことがよく分かりました。「ありがとうがいっぱいだね」と言っている子もいました。

京都大学教授の明和政子氏が初等教育資料11月号で「ヒトの育ちに必要環境」として、学びの動機を高めるアタッチメントのことを書いてくださっています。「こどもが主体的に活動することで得られる驚きや感動に対して、周囲の誰かが適切なフィードバックを与えていく。すると子供の脳内にはドーパミンと呼ばれる神経伝達物質が放出され、学びの動機が更に高まっていく仕組みとなっています」「こどもたちが驚き、発見を共有し、学びの動機を高めていくためには、複数のアタッチメント対象が必要です。」身近な大人が日々、子供と安定的に心地よい関わりをしていくと共に、園で一緒に過ごしている同年齢や異年齢の、大好きな友達との関わりも大切にしたいと思いました。

この1年、子供たちは様々な出会いをし、葛藤を乗り越え、皆で育ち合ってきました。1年の終わりに様々な頑張りを温かく受け止め、次への意欲につながるよう支えていただけたらと思います。もちつき会や音楽会で感動を共有し1年を締めくくります。温かいご支援をありがとうございました。